

水 土 里 レ ポ ー ト

タイトル	「水の旅」～田んぼの水はどこから来てどこへ？～
実施場所	青森県 五所川原市
水土里レポーター名	小田川土地改良区 打越仁美
投稿月日	令和8年7月15日

令和8年6月24日（水）五所川原市立金木小学校4年生27名、6月26日（金）五所川原市立いずみ小学校4年生20名を対象に、青森県土地改良事業団体連合会、東北森林管理局津軽森林管理署金木支署など関係機関のご協力のもと『「水の旅」～田んぼの水はどこから来てどこへ？～』を実施しました。

「水の旅」では、家や学校の周りに広がる田んぼの「水」がどこから来てどこへ向かうのかを知るために、ダムやため池など農業用施設を見学し、健全な水循環の中で森林が果たす役割について理解を深めてもらうことを目的としています。

まず初めに、農業用ダムである小田川ダムを見学し、地域の田んぼへ水を届けるためにダムがどのような役割を果たしているのか学びました。続いて、青森県土地改良事業団体連合会の方から水がどのように循環し、地域の田んぼに流れていくのかという「水循環システム」について説明を受けました。



小田川ダムについて学ぶ様子（いずみ小学校）



「水循環システム」について学ぶ様子（金木小学校）



取水口の見学（金木小学校）

その後、水源の森へ移動し、森林管理署の方から森林の働きについて説明していただいた後、簡易ろ過実験や水の保水力を確かめる実験を行い、自然の仕組みについて学びました。

ペットボトルを使ったろ過実験では、汚れた水をろ過の仕組みを再現したペットボトルに注ぎ、抽出された水の様子を2つのグループに分かれて観察していました。

保水力実験では、「砂」「土砂」「森の土壌を再現したもの」の3つのサンプルを用意し、子供たちがそれぞれに水を注ぎ、流れ出してくる水の量の違いに着目しつつ実験をしました。



水のろ過実験の様子（金木小学校）



保水力実験の様子（いずみ小学校）

さらに中央管理所では、ため池の水位や状況を確認する遠隔カメラを操作し、農業用施設の中に隠されたぬいぐるみ探しに挑戦しました。子どもたちは楽しみながら施設管理の仕組みを学んでいました。



中央管理所について学ぶ様子（いずみ小学校）



カメラ操作を体験する様子（金木小学校）

当土地改良区では、今後もこの活動を通じて、田んぼへ水が届くまでの流れや、そのために様々な農業用施設があることを理解してもらうとともに、食と生活を支える水循環システムを地域の人々で大切に守っていきこうとする気持ちを育んでいきたいと思っています。